

滝畑鳥獣保護区

鳥獣保護区更新調査業務  
報告書

令和4年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

# 目次

1. 調査の目的.....	1
2. 調査区域及び調査対象.....	1
3. 調査内容.....	1
4. 調査地の概要及び環境.....	3
5. 調査方法.....	4
6. 調査範囲・調査地点.....	5
7. 調査結果.....	6
8. まとめ.....	22
9. 参考文献.....	28

## 1. 調査の目的

この調査は、大阪府が指定した既存鳥獣保護区のうち、滝畑鳥獣保護区の存続期間の更新等についての検討資料とするため、その地域における野生鳥獣の生息状況など地域の自然環境に関する基礎資料を得ることを目的とする。

## 2. 調査区域及び調査対象

滝畑鳥獣保護区に生息する野生鳥獣等を調査対象とする。滝畑鳥獣保護区の範囲を図 2-1 に示す。

## 3. 調査内容

既存データを活用し、実地調査により、下記の事項を把握する。

- ・ 調査地の概要及び環境（地形、植生の状況等）
- ・ 鳥獣生息状況（リスト作成）、生息区分、特色等

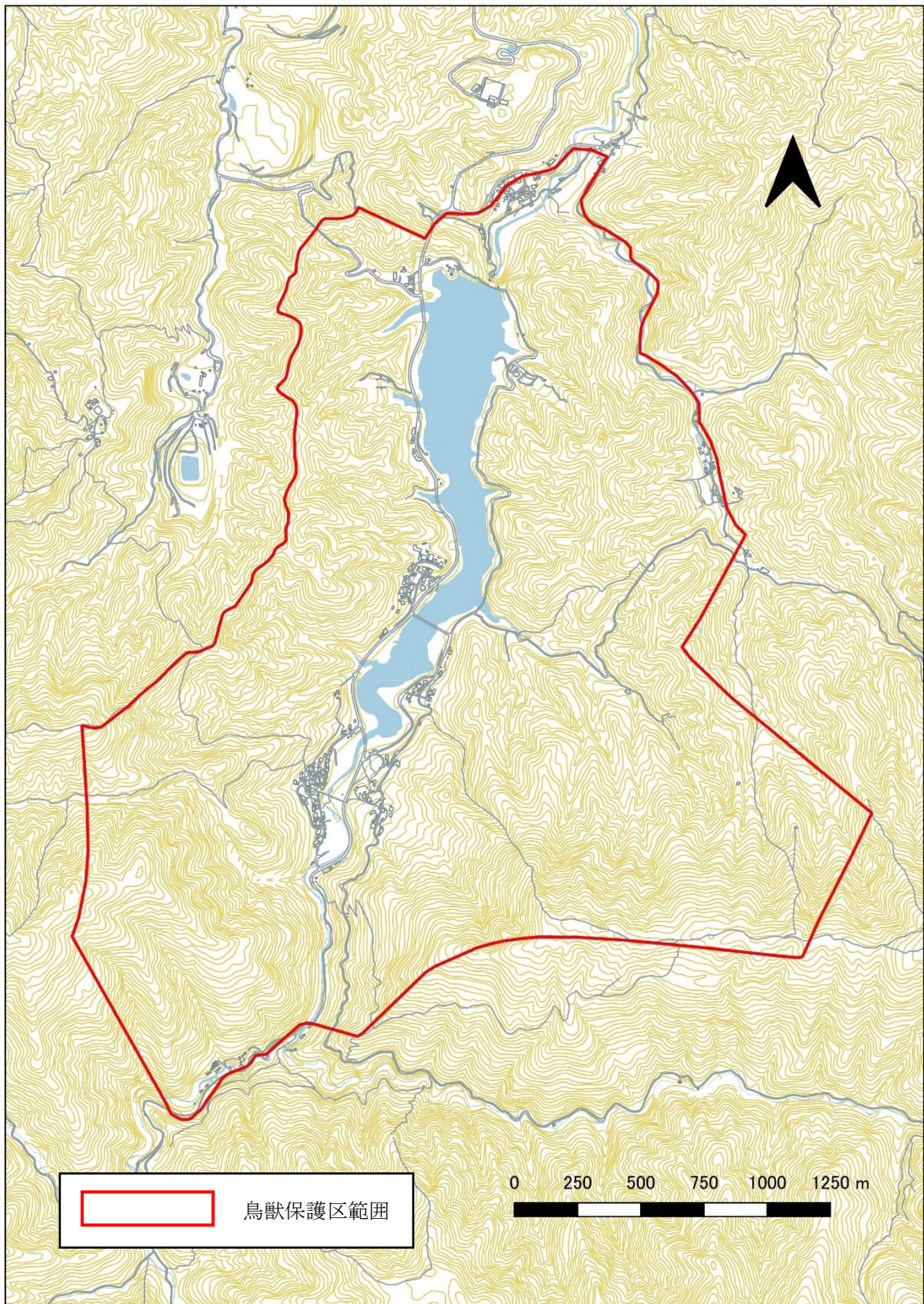


図 2-1 滝畑鳥獣保護区の範囲



#### 4. 調査地の概要及び環境

滝畑鳥獣保護区は、大阪府の南東部、河内長野市の南西部に位置し、標高は210m～780m、面積は656haである。保護区内中央北寄りに湛水面積52.3haの滝畑ダムがあり、周辺は岩湧山(897.1m)、槇尾山(600m)、旗倉山(495.1m)、一徳坊山(541m)、扇山(762m)などの比較的急峻な山々に囲まれた山地帯に位置する。また、東を岩湧山鳥獣保護区、北西側を槇尾山鳥獣保護区と接しており、少し離れた北側には天野山鳥獣保護区が位置している。

保護区内の植生は滝畑ダムや横谷川に沿って一部、住宅地、水田雑草群落を見ることができるが、多くは森林が占める。森林の多くはスギ・ヒノキの人工林であるが、谷筋、急傾斜地、社寺林にはシラカシを主体とするカシ類の混交林やアカマツ・クヌギ・コナラの二次林も見ることができる。1989年には大阪府によって「滝畑ダム」と「四十八滝」を併せて「大阪みどりの百選」に選定されている。

保護区内には河内長野市が運営する「滝畑ふるさと文化財の森センター」がある。また、滝畑湖畔観光農林組合が運営する「滝畑湖畔バーベキュー場」と「光滝寺キャンプ場」があり、滝畑ふるさと文化財の森センターでは2,500人、滝畑湖畔バーベキュー場では47,000人、光滝寺キャンプ場では21,000人の年間利用者がある。また、ダム湖周辺には遊歩道、サイクリング道が整備されているほか、奈良県香芝市の「どんづるぼう」を起点として大阪府和泉市の「槇尾山」に至るハイキング道「ダイヤモンドトレール」が保護区内を通過しており、サイクリング愛好家やハイカー等に自然と触れ合う場として利用され、年間を通して賑わっている。

参考：「河内長野市植物調査報告書 第1編 河内滝畑の植物」(1975年,河内長野市教育委員会)

## 5. 調査方法

調査は、鳥類については現地調査および表 5-1 に示す文献による文献調査、哺乳類については現地調査および河内長野市と保護区内にある施設への聞き取り調査で実施した。

現地調査は、ラインセンサス法と定点観察、任意観察を実施した。ラインセンサス法では、調査ルートを約 1.5km/h の速度で歩き、片側 25m 両側合わせて 50m の範囲の鳥獣を記録した。調査ルートは、府道河内長野かつらぎ線と滝畑ダム管理道路が北側で交わる地点から府道堺かつらぎ線を南下して展望台を經由し、夕月橋を東に渡りさらに南下し、バス停（夕月橋）に至るルート（1.8km）を設定した。定点観察では、調査定点に 10 分間滞在し、確認された鳥類を記録した。調査地点は 2 ヶ所設定し、大阪府滝畑ダム管理事務所東の園地を P1、府道堺かつらぎ線沿いの展望台を P2 とした。P2 での定点観察は地点がセンサスルート中間にあるためラインセンサスを一時中断して実施している。各ルート及び定点の位置を図 6-1 に示す。任意観察では、保護区内を任意に踏査し、ラインセンサス法及び定点観察で記録されなかった鳥類を記録するように努めた。調査時期は、繁殖期、秋期及び越冬期とした。

確認された種から重要種を抜粋した。重要種の選定基準は表 5-2 に示すとおりである。

**表 5-1 参考文献・参照資料**

文献 No.	文献・情報名	発行または実施年・発行者
文献 1	滝畑ダム探鳥会出现鳥記録	2011 年～2021 年・河内長野野鳥の会
文献 2	河内長野市ため池調査 (滝畑ダム)	2020 年～2021 年・河内長野野鳥の会
文献 3	大阪府鳥類目録 2016	2016 年・日本野鳥の会大阪支部

**表 5-2 重要種の選定基準**

選定基準
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）
環境省レッドリスト 2020（環境省 RL）
大阪府レッドリスト 2014（大阪府 RL）

## 6. 調査範囲・調査地点

調査範囲は滝畑獣保護区全域とした。ラインセンサスに用いたルート (R1) 及び定点観察に用いた地点 (P1)、(P2) は、図 6-1 に示すとおりである。

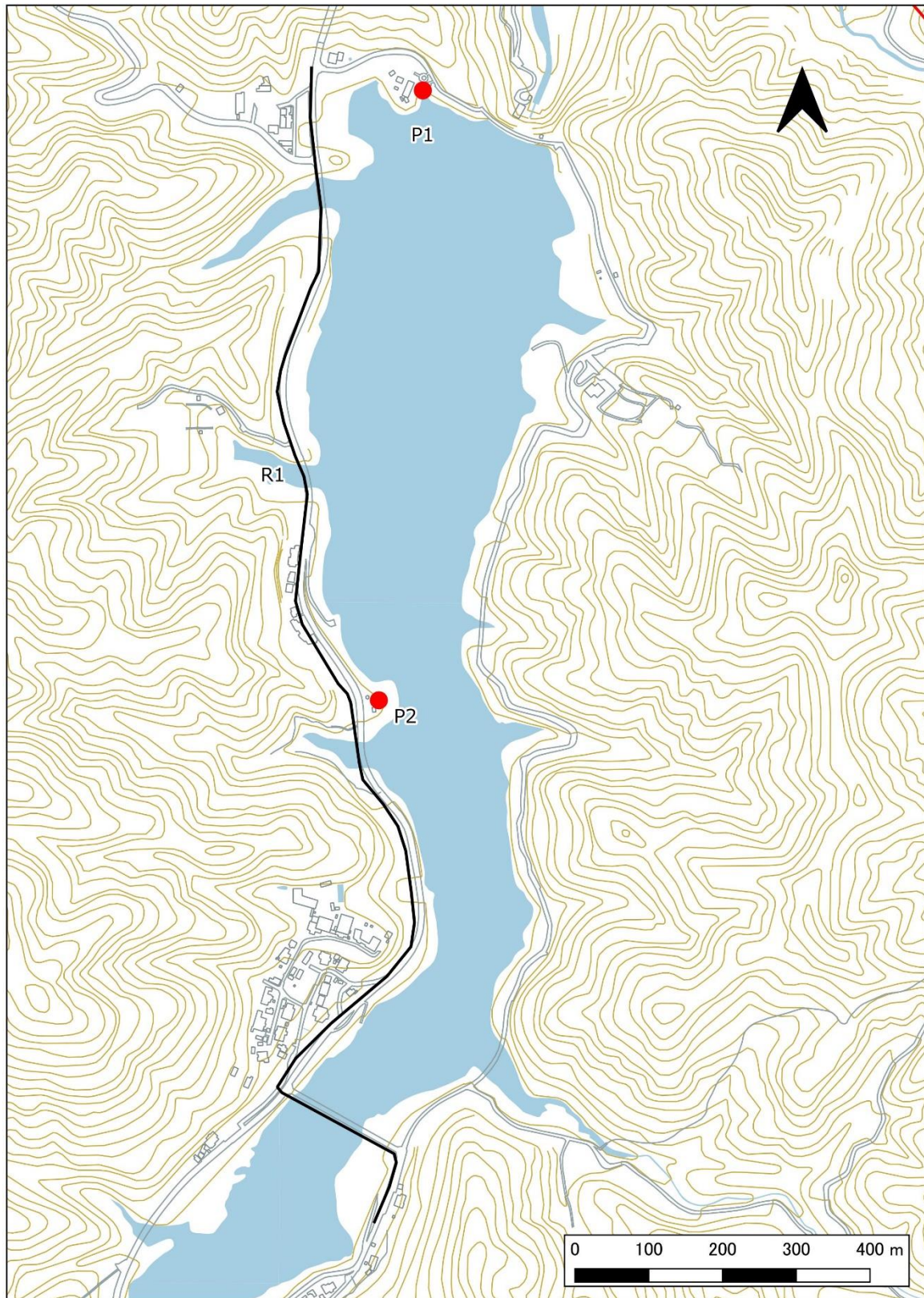


図 6-1 調査ルート及び定点

## 7. 調査結果

### 7-1 現地調査結果

① 調査時期・天候・時間

現地調査時期、天候、調査時間を表 7-1 に示す。

表 7-1 調査時期・天候・調査時間

調査時期	調査日時	天候	調査時間	
繁殖期	令和4年6月8日	快晴	R1	7:00～8:30
			P1	12:10～12:20
			P2	7:35～7:45
			任意	8:40～12:10 12:30～14:00
秋期	令和4年10月21日	晴れ	R1	7:35～9:25
			P1	11:25～11:35
			P2	8:25～8:35
			任意	9:35～11:25 11:38～15:00
越冬期	令和5年1月9日	快晴	R1	8:05～9:50
			P1	11:35～11:45
			P2	9:05～9:15
			任意	9:50～11:30 12:45～15:00



## ② 鳥類確認種

現地調査の結果、13目31科60種の鳥類を確認した。確認種の一覧を表7-2に示す。

現地調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥37種、夏鳥9種、冬鳥11種、旅鳥1種であり、留鳥62%、夏鳥15%、冬鳥18%、旅鳥2%と、一年を通してみられる留鳥が半数を占めた(図7-1)。なお、渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」(2017年3月31日,日本野鳥の会大阪支部)に従った。

なお、大阪府鳥類目録で渡り区分が夏鳥とされているサンショウクイについては、亜種リュウキュウサンショウクイが秋期、越冬期にも確認されたことから留鳥と記載した。確認種リストで亜種リュウキュウサンショウクイはサンショウクイと同種として扱っている。

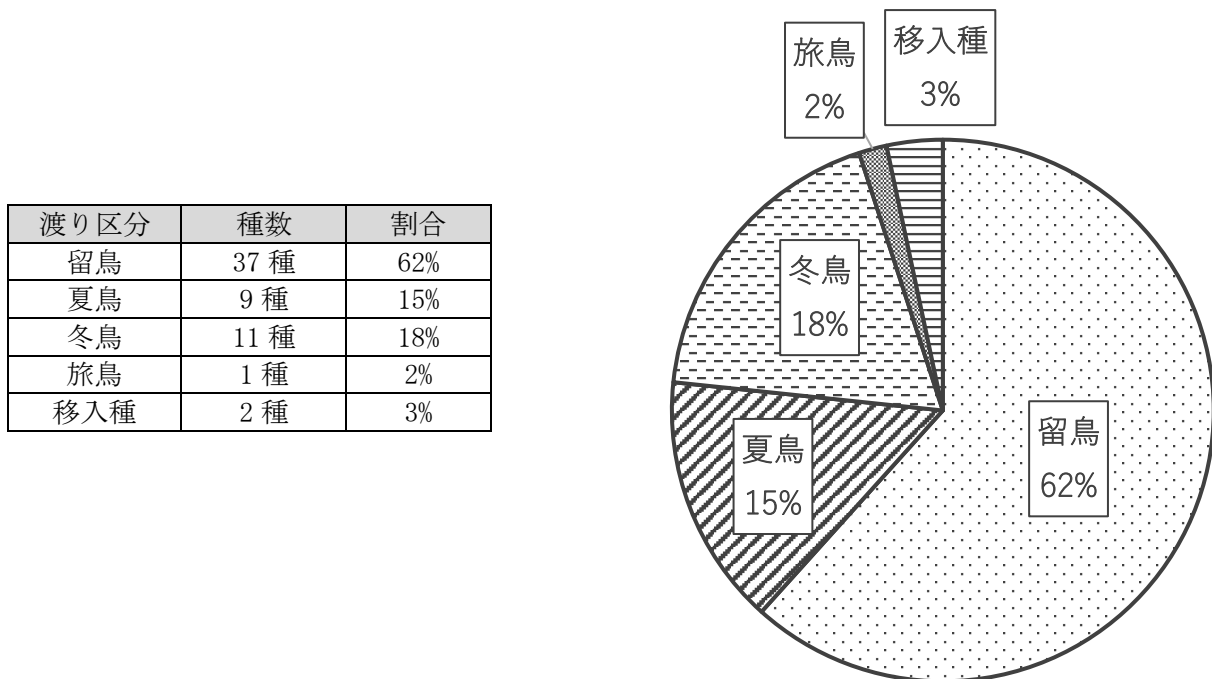


図7-1 現地調査 渡り区分の内訳

表 7-2 現地調査 鳥類確認種(1/2)

No.	目名	科名	種名	学名	繁殖期	秋期	越冬期	渡り区分		
1	キジ	キジ	ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>		○		留鳥		
2			キジ	<i>Phasianus colchicus</i>		○		留鳥		
3	カモ	カモ	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>		○		冬鳥		
4			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>			○	冬鳥		
5			カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○		○	留鳥		
6			コガモ	<i>Anas crecca</i>			○	冬鳥		
7	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>		○	○	留鳥		
8	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○	○	○	留鳥		
9			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>		○		留鳥		
10	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○	○	○	留鳥		
11	ペリカン	サギ	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○		○	留鳥		
12	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	○			夏鳥		
13			ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	○			夏鳥		
14	チドリ	チドリ	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	○			留鳥		
15	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	○	○	○	留鳥		
16	タカ	タカ	トビ	<i>Milvus migrans</i>	○	○		留鳥		
17			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>		○		留鳥		
18			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>		○		冬鳥		
19			サシバ	<i>Butastur indicus</i>	○			夏鳥		
20			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>			○		冬鳥	
21			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>			○	○	留鳥	
22			ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>		○	○	留鳥
23	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	○	○	○	留鳥		
24			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	○	○	○	留鳥		
25	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>		○		留鳥		
26	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	○	○	○	留鳥		
27		カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	○			夏鳥		
28		モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>		○	○	留鳥		
29		カラス	カラス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	○	○	○	留鳥	
30				ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	○			留鳥	
31				ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	○	留鳥	
32		シジュウカラ	シジュウカラ	コガラ	<i>Poecile montanus</i>			○	留鳥	
33				ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	○	○	○	留鳥	
34				ヒガラ	<i>Periparus ater</i>			○	○	留鳥
35				シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	○	○		留鳥	
36		ツバメ	ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○			夏鳥	
37				イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	○	○		夏鳥	
38		ヒヨドリ	ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	○	留鳥	
39		ウグイス	ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○	○	○	留鳥	
40		エナガ	エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○		○	留鳥	
41	ムシクイ	センダイムシクイ	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○			夏鳥		
42	メジロ	メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○	○	○	留鳥		
43	ミソサザイ	ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>			○	留鳥		
44	カワガラス	カワガラス	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	○	○	○	留鳥		
45	ヒタキ	ルリヒタキ	ルリヒタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>			○	冬鳥		

表 7-3 現地調査 鳥類確認種(2/2)

No.	目名	科名	種名	学名	繁殖期	秋期	越冬期	渡り区分
46	スズメ	ヒタキ	ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>		○	○	冬鳥
47			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	○	○	○	留鳥
48			エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>		○		旅鳥
49			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	○			夏鳥
50			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	○			夏鳥
51		セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	○		○	留鳥
52			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>		○	○	留鳥
53			ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>		○		冬鳥
54		アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>		○		冬鳥
55			カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○			留鳥
56			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>			○	冬鳥
57		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	○	○	○	留鳥
58			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>			○	冬鳥
59		(キジ)	(キジ)	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	○	○	○
60	(スズメ)	(チメドリ)	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>		○		移入
合計	13 目	31 科	60 種		34 種	38 種	34 種	—

・分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。

・渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」(2017年3月31日, 日本野鳥の会大阪支部)に従った。

### ③ 鳥類の繁殖状況

繁殖期調査において確認された種について、全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（NPO 法人バードリサーチ、<https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>）に準じて繁殖可能性を判定した。

繁殖期調査では 34 種が確認され、いずれも繁殖ランク C に該当し、調査範囲及びその周辺で繁殖している可能性が認められた。このうち 15 種は現地調査において繁殖を示唆する行動が確認され（繁殖ランク A および B）、調査範囲内で繁殖している可能性が高いと考えられた。さらに、このうち 3 種は繁殖を確認できた（ランク A）。繁殖の可能性のある種の内訳は表 7-3 に示すとおりである。

繁殖期調査では、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類であるサシバが確認されているが、他個体を追い払おうとする排他行動が確認されたことから、観察地点周辺での繁殖している可能性が高いと考えられる。

なお、クマタカ（種の保存法記載種）については、繁殖期調査において確認されなかったため繁殖の選定基準からは外れているが、越冬機調査において雌雄による求愛のディスプレイフライトと考えられる行動が確認されており、周辺地域で繁殖している可能性がある。

表 7-3 鳥類の繁殖状況

ランク	観察コード	観察事項	該当種
A (繁殖を確認) 3 種	10	成鳥が巣あるいは巣のあるらしいところにくり返し出入りしている	イワツバメ
	14	成鳥が巣のヒナに餌を運搬している（餌をくわえたまま観察者を警戒し移動する気配のない場合を含む）	ヤマガラ、シジュウカラ
B (繁殖の可能性が高い) 13 種	30	その種が営巣し得る環境で繁殖期に、その種のさえずり（キツツキ類のドラミングを含める）を聞いた。ただし、その鳥が冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く	ホトトギス、サンコウチョウ、ウグイス、センダイムシクイ、イソヒヨドリ、キビタキ、オオルリ、ホオジロ、コジュケイ
	33	威嚇行動、警戒行動により、付近に巣又はヒナの存在が考えられる	サシバ、シジュウカラ、ウグイス、メジロ
	37	成長がヒナへの餌を運搬しているが、巣が周囲にあるかどうかわからない	ハシブトガラス
C (繁殖の可能性あり) 19 種	50	その種が営巣し得る環境で繁殖期にその種を確認したが、他には繁殖の兆候が認められない。ただし冬鳥または旅鳥は過去にその地方で繁殖の記録があるもの	カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ツツドリ、イカルチドリ、ミサゴ、トビ、コゲラ、アオゲラ、サンショウクイ、カケス、ハシボソガラス、ツバメ、ヒヨドリ、エナガ、カワガラス、キセキレイ、カワラヒロ

- ・全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（2014, NPO 法人バードリサーチ <https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>）を参照し、該当箇所を抜粋して作成した。
- ・シジュウカラはランク A とランク B で重複、ウグイスはランク B 内で重複して記録されている。



④ ラインセンサス法による鳥類の生息個体数

ラインセンサスによる調査の結果、12 目 25 科 42 種の鳥類を確認した。ラインセンサスによる調査回毎の個体数を表 7-4 に示す。期別の種数では、繁殖期と秋期でそれぞれ 26 種確認され、越冬期では 21 種の確認となった。個体数では、秋期の 117 個体が最も多く、次いで繁殖期が 76 個体、越冬期が 66 個体であった。秋期の個体数が最も多かったのは、秋に集団で移動するヒヨドリやメジロの群れが観察されたこと、冬鳥で群性のアトリの一群が観察されたことによる。

表 7-4 調査回毎の鳥類確認個体数(ラインセンサス法)

No.	目名	科名	種名	繁殖期	秋期	越冬期	計		
1	カモ	カモ	オシドリ		3		3		
2			カルガモ	2			2		
3	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ		2	8	10		
4	ハト	ハト	キジバト	1	1		2		
5	カツオドリ	ウ	カワウ	1	2	1	4		
6	ペリカン	サギ	アオサギ	1			1		
7	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	1			1		
8			ツツドリ	3			3		
9	チドリ	チドリ	イカルチドリ	1			1		
10	タカ	ミサゴ	ミサゴ	1			1		
11		タカ	トビ		1		1		
12	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		2	2	4		
13	キツツキ	キツツキ	コゲラ	1	1	2	4		
14			アオゲラ		4		4		
15	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	1	6	1	8		
16		モズ	モズ		5	1	6		
17		カラス	カケス		4	1	5		
18			ハシボソガラス	1			1		
19			ハシブトガラス	2	4	4	10		
20		シジュウカラ	ヤマガラ	2	2	2	6		
21			ヒガラ		1		1		
22			シジュウカラ	1	4		5		
23		ツバメ	ツバメ	1			1		
24			イワツバメ		4		4		
25		ヒヨドリ	ヒヨドリ	16	21	3	40		
26		ウグイス	ウグイス	11	4	2	17		
27		エナガ	エナガ	2		1	3		
28		メジロ	メジロ	12	17	2	31		
29		ヒタキ	ルリビタキ			1	1		
30			ジョウビタキ		1	3	4		
31			イソヒヨドリ	3	5	3	11		
32			キビタキ	2			2		
33			オオルリ	1			1		
34			セキレイ	キセキレイ	2			2	
35		セグロセキレイ			3	2	5		
36		ビンズイ			1		1		
37		アトリ	アトリ		13		13		
38			カワラヒワ	3			3		
39			ベニマシコ			6	6		
40		ホオジロ	ホオジロ	1	5	2	8		
41			アオジ			16	16		
42		(キジ)	(キジ)	コジュケイ	3	1	3	7	
		12 目	25 科	42 種	種数	26	26	21	42
					個体数	76	117	66	259

⑤ 定点観察法による鳥類の生息個体数

定点観察調査の結果、9目17科24種の鳥類を確認した。各地点における調査回毎の個体数を表7-5に示す。各定点は湖面と周辺の山の斜面を広く見渡せる地点を選定したが、越冬期にP2でカイツブリの群れを観察した以外に群性の鳥を確認することができず、両地点とも種数、個体数が少ない結果となった。定点観察調査で確認された鳥類を表7-5に示す。

表 7-5 調査回・定点毎の鳥類確認個体数(定点観察法)

No.	目名	科名	種名	P1				P2				総計	
				繁殖期	秋期	越冬期	計	繁殖期	秋期	越冬期	計		
1	カモ	カモ	マガモ			1	1					1	
2			カルガモ			2	2					2	
3	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ		1		1			13	13	14	
4	カツオドリ	ウ	カワウ	1	1	1	3	1			1	4	
5	ペリカン	サギ	アオサギ			1	1					1	
6	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	1			1	1			1	2	
7			ツツドリ					1			1	1	
8	タカ	ミサゴ	ミサゴ			1	1					1	
9		タカ	トビ	1			1					1	
10	キツツキ	キツツキ	コゲラ					1			1	1	
11			アオゲラ		1		1		1		1	2	
12	スズメ	モズ	モズ		1		1					1	
13		カラス	カケス						4	1	5	5	
14			ハシブトガラス		1	1	2	1		1	2	4	
15		ツバメ	ツバメ	2			2					2	
16			イワツバメ		2		2					2	
17		ヒヨドリ	ヒヨドリ	1	4	1	6	3	8	3	14	20	
18		ウグイス	ウグイス	1			1	2	1		3	4	
19		メジロ	メジロ	1	1	1	3		3	1	4	7	
20		ヒタキ	ジョウビタキ								1	1	1
21			イソヒヨドリ	1	1		2					2	
22			キビタキ					1				1	1
23		ホオジロ	ホオジロ						1		1	1	
24		(キジ)	(キジ)	コジュケイ	1			1					1
合計	9目	17科	24種	種数	9	9	8	18	8	6	6	14	24
			個体数	10	13	9	32	11	18	20	49	81	

⑥ 重要種

現地調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は6目9科13種であった。種の保存法記載種が2種、環境省レッドリスト記載種が7種、大阪府レッドリスト記載種が9種確認された。重要種のうち、繁殖期に確認されたものはツツドリ、イカルチドリ、ミサゴ、サシバ、サンショウクイ、センダイムシクイ、カワガラスの7種であった。確認された重要種を表7-6、確認位置を図7-2に示す。

表 7-6 確認された重要種

No.	目名	科名	種名	学名	種の保存法	環境省 RDB	大阪 RDB
1	カモ	カモ	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>		DD	
2	カッコウ	カッコウ	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>			NT
3	チドリ	チドリ	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>			VU
4	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>		NT	
5		タカ	ツミ	<i>Accipiter gularis</i>			VU
6			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>		NT	
7			サシバ	<i>Butastur indicus</i>		VU	CR+EN
8			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>			NT
9			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>	国内希少	EN	CR+EN
10			ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	国内希少
11	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>		VU	VU
12		ムシクイ	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>			NT
13		カワガラス	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>			NT
合計	6目	9科	13種		2種	7種	9種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類  
 VU：絶滅危惧Ⅱ類  
 NT：準絶滅危惧種  
 DD：情報不足

絶滅の危機に瀕している種  
 絶滅の危険が増大している種  
 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種  
 評価するだけの情報が不足している種



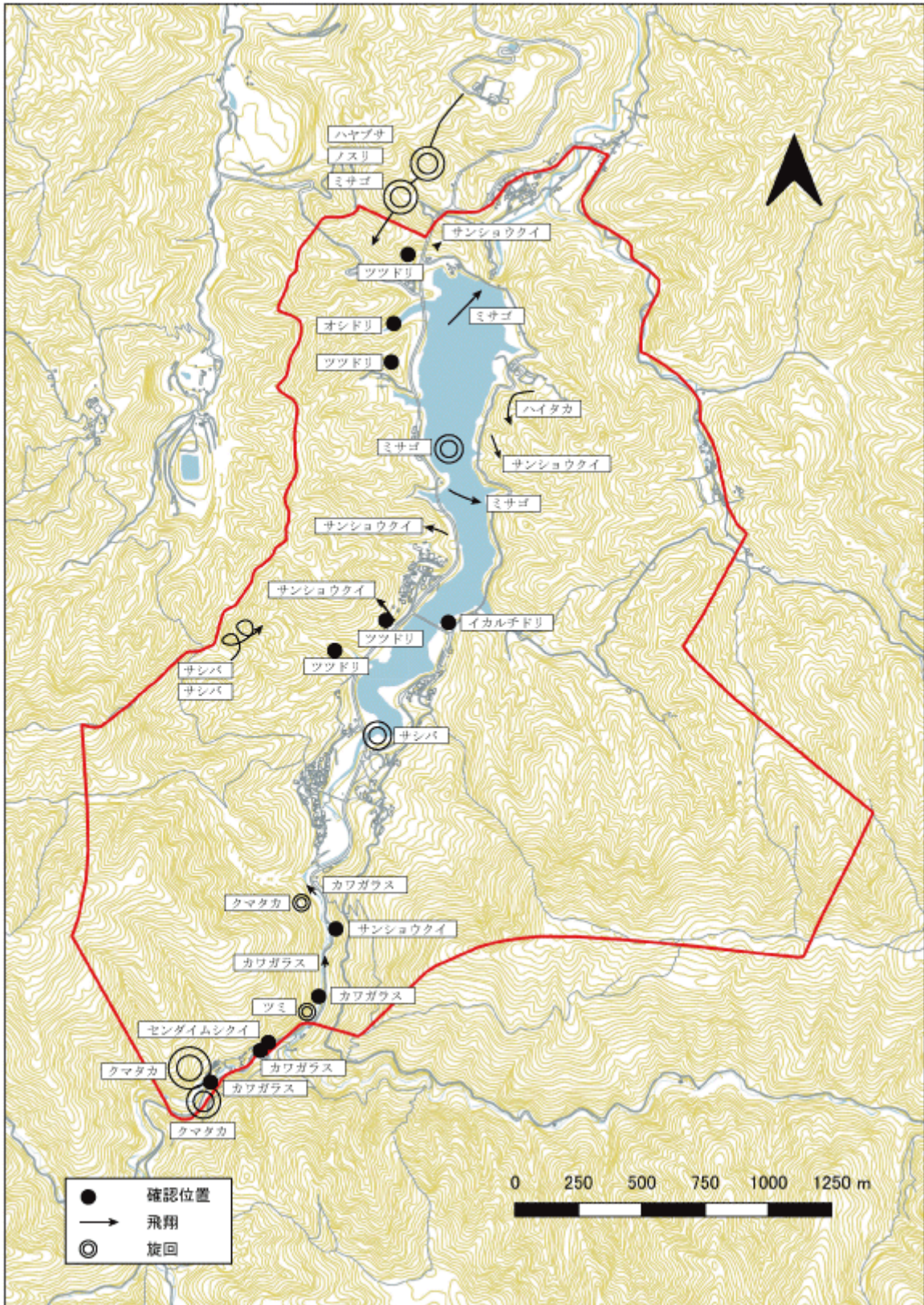


図 7-2 重要種確認位置

⑦ 哺乳類確認種

現地調査の結果、2目2科2種の哺乳類を確認した。確認された哺乳類を表7-7に示す。重要種は確認できなかった。学名・分類群・配列は「日本の哺乳類 改定2版」（東海大学出版会、2008）に従った。

**表 7-7 現地調査 哺乳類確認種**

No.	目名	科名	種名	学名	確認状況
1	ネズミ	リス	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	目撃
2	鯨偶蹄	イノシシ	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	採餌痕跡
合計	2目	2科	2種		-

## 7-2 文献・資料調査結果

表 5-1 で示したそれぞれの文献・資料の記載概況を表 7-8 に示す。

表 7-8 文献概要

文献 No.	文献・情報名	文献・情報の内容
文献 1	滝畑ダム探鳥会出現鳥記録	河内長野野鳥の会にて年 1 回実施されている「滝畑ダム探鳥会」の観察記録。2016 年～2022 年（2021 年は休止）に観察された鳥類を引用した。
文献 2	河内長野市ため池調査（滝畑ダム）	河内長野野鳥の会が毎月実施しているため池調査の観察記録。2020 年 3 月から 2022 年 3 月までに「滝畑ダム」で観察された鳥類を引用した。
文献 3	大阪府鳥類目録 2016（日本野鳥の会大阪支部）	目録巻末に示された大阪府下の各地域リストの中で「滝畑」に記載された種を引用した。

### ① 鳥類確認種

文献調査の結果、16 目 33 科 85 種の鳥類を確認した。確認種を表 7-9 に示す。文献別では、文献 1 で 50 種、文献 2 で 76 種、文献 3 で 23 種が確認された。

文献調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥 40 種、夏鳥 15 種、冬鳥 23 種、旅鳥 5 種であった（表 7-9、図 7-3）。現地調査と同様、留鳥の占める割合が最も高く、46%であった。現地調査において旅鳥の割合は 2%であったが、文献調査では 7%を旅鳥が占めていた。短期間の滞在で渡去する旅鳥は、単年度の調査では確認されない場合も多く、集積された文献・資料でのみ確認される種が少なくない。なお、渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」（2017 年 3 月 31 日、日本野鳥の会大阪支部）に従ったが、同目録において、夏鳥とされているサンショウクイは、現地調査における出現状況を踏まえてここでは留鳥としている。

渡り区分	種数	割合
留鳥	40 種	47%
夏鳥	15 種	18%
冬鳥	23 種	27%
旅鳥	5 種	6%
移入種	2 種	2%

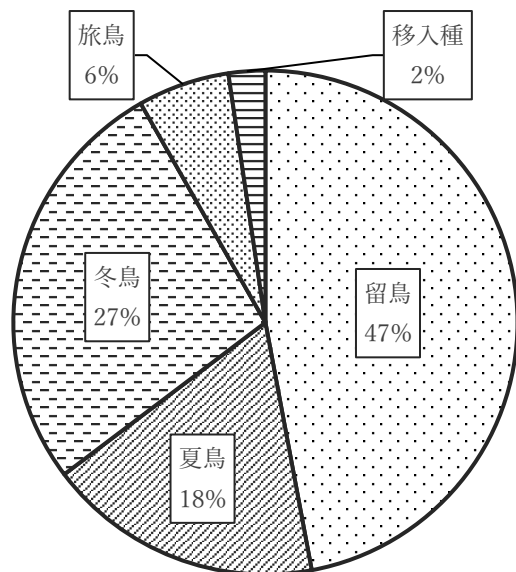


図 7-3 文献調査 渡り区分の内訳

表 7-9 文献調査 鳥類確認種(1/2)

No.	目名	科名	種名	学名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り区分
1	カモ	カモ	オシドリ	<i>Aixgalericulata</i>	○	○		冬鳥
2			ヨシガモ	<i>Anasfalcata</i>			○	冬鳥
3			ヒドリガモ	<i>Anaspenelope</i>		○		冬鳥
4			マガモ	<i>Anasplatyrhynchos</i>	○	○		冬鳥
5			カルガモ	<i>Anaszonorhyncha</i>	○	○		留鳥
6			コガモ	<i>Anascrecca</i>		○		冬鳥
7	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptusruficollis</i>	○	○		留鳥
8	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopeliaorientalis</i>	○	○		留鳥
9			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	○	○	○	留鳥
10	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocoraxcarbo</i>	○	○		留鳥
11	ペリカン	サギ	ヨシゴイ	<i>Ixobrychussinensis</i>		○		夏鳥
12			アオサギ	<i>Ardeacinerea</i>	○	○		留鳥
13			ダイサギ	<i>Ardeaalba</i>		○		留鳥
14	ツル	クイナ	オオバン	<i>Fulicaatra</i>	○			冬鳥
15	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	<i>Cuculuspoliocephalus</i>		○		夏鳥
16			ツツドリ	<i>Cuculusoptatus</i>		○		夏鳥
17			カッコウ	<i>Cuculuscanorus</i>			○	夏鳥
18	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>		○	○	旅鳥
19	チドリ	チドリ	イカルチドリ	<i>Charadriusplacidus</i>		○		留鳥
20	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandionhaliaetus</i>	○	○		留鳥
21		タカ	ハチクマ	<i>Pernisptilorhynchus</i>		○	○	夏鳥
22			トビ	<i>Milvusmigrans</i>	○	○		留鳥
23			ツミ	<i>Accipiterregularis</i>	○	○		留鳥
24			ハイタカ	<i>Accipiternisus</i>	○	○		冬鳥
25			オオタカ	<i>Accipitergentilis</i>	○	○		留鳥
26			サシバ	<i>Butasturindicus</i>		○		夏鳥
27			ノスリ	<i>Buteobuteo</i>	○	○		冬鳥
28			クマタカ	<i>Nisaetusnipalensis</i>	○	○		留鳥
29			フクロウ	フクロウ	アオバズク	<i>Ninoxscutulata</i>		○
30	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	<i>Halcyoncoromanda</i>		○		夏鳥
31			カワセミ	<i>Alcedoathis</i>	○	○		留鳥
32	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocoposkizuki</i>	○	○		留鳥
33			オオアカゲラ	<i>Dendrocoposleucotos</i>	○			留鳥
34			アカゲラ	<i>Dendrocoposmajor</i>	○	○		留鳥
35			アオゲラ	<i>Picusawokera</i>	○	○	○	留鳥
36	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>		○		留鳥
37	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotusdivaricatus</i>	○	○		留鳥
38		モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	○	○		留鳥
39		カラス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	○	○		留鳥
40			ハシボソガラス	<i>Corvuscorone</i>	○	○	○	留鳥
41			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○		留鳥
42		シジュウカラ	ヤマガラ	<i>Poecilevarius</i>	○	○	○	留鳥
43			ヒガラ	<i>Periparusater</i>	○	○	○	留鳥
44			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	○	○		留鳥



表 7-9 文献調査 鳥類確認種(2/2)

No.	目名	科名	種名	学名	文献1	文献2	文献3	渡り区分
45	スズメ	ツバメ	ツバメ	<i>Hirundorustica</i>		○	○	夏鳥
46			コシアカツバメ	<i>Hirundodaurica</i>		○		夏鳥
47			イワツバメ	<i>Delichondasypus</i>		○	○	夏鳥
48		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetesamaurotis</i>	○	○	○	留鳥
49		ウグイス	ウグイス	<i>Cettiadiphone</i>	○	○		留鳥
50			ヤブサメ	<i>Urosphenasquameiceps</i>		○		留鳥
51		エナガ	エナガ	<i>Aegithaloscaudatus</i>	○	○		留鳥
52		ムシクイ	オオムシクイ	<i>Phylloscopusexaminandus</i>		○		旅鳥
53			センダイムシクイ	<i>Phylloscopuscoronatus</i>		○		夏鳥
54		メジロ	メジロ	<i>Zosteropsjaponicus</i>	○	○		留鳥
55	カワガラス	カワガラス	<i>Cincluspallasii</i>		○	○	留鳥	
56	ヒタキ	トラツグミ	<i>Zootheradauma</i>	○		○	冬鳥	
57		クロツグミ	<i>Turduscardis</i>		○	○	夏鳥	
58		シロハラ	<i>Turduspallidus</i>	○	○		冬鳥	
59		ツグミ	<i>Turdusnaumanni</i>	○	○		冬鳥	
60		コルリ	<i>Lusciniacyane</i>			○	旅鳥	
61		ルリビタキ	<i>Tarsigercyanurus</i>	○	○		冬鳥	
62		ジョウビタキ	<i>Phoenicurusauoreus</i>	○	○		冬鳥	
63		イソヒヨドリ	<i>Monticolasolitarius</i>	○	○		留鳥	
64		エゾビタキ	<i>Muscicapagriseisticta</i>			○	旅鳥	
65		コサメビタキ	<i>Muscicapadaurica</i>		○		旅鳥	
66		キビタキ	<i>Ficedulanarcissina</i>		○		夏鳥	
67		オオルリ	<i>Cyanoptilacyanomelana</i>		○	○	夏鳥	
68		イワヒバリ	カヤクグリ	<i>Prunellarubida</i>		○	○	冬鳥
69		セキレイ	キセキレイ	<i>Motacillanerea</i>	○	○	○	留鳥
70	ハクセキレイ		<i>Motacillaalba</i>	○	○		留鳥	
71	セグロセキレイ		<i>Motacillagrandis</i>	○	○		留鳥	
72	ビンズイ		<i>Anthus Hodgsoni</i>		○		冬鳥	
73	アトリ	アトリ	<i>Fringillamontifringilla</i>			○	冬鳥	
74		カワラヒワ	<i>Chlorissinica</i>	○	○		留鳥	
75		マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	○	○	○	冬鳥	
76		ベニマシコ	<i>Uragussibiricus</i>	○	○		冬鳥	
77		ウソ	<i>Pyrrhulapyrhula</i>	○	○		冬鳥	
78		シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>		○		冬鳥	
79		イカル	<i>Eophonapersonata</i>	○	○		留鳥	
80	ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberizacioides</i>	○	○	○	留鳥	
81		カシラダカ	<i>Emberizarustica</i>		○		冬鳥	
82		アオジ	<i>Emberizaspocephala</i>	○	○		冬鳥	
83		クロジ	<i>Emberizavariabilis</i>	○			冬鳥	
84	(キジ)	(キジ)	コジュケイ	<i>Bambusicolathoracicus</i>		○		移入
85	(スズメ)	(チメドリ)	ソウシチョウ	<i>Leiothrixlutea</i>		○		移入
合計	16 目	33 科	85 種		50 種	76 種	23 種	—

- ・分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。
- ・渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」(2017年3月31日, 日本野鳥の会大阪支部)に従った。

② 鳥類重要種

文献調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は9目15科23種であった。確認された重要種を表7-10に示す。

今回の調査で、種の保存法記載種が2種、環境省レッドリスト記載種が11種、大阪府レッドリスト記載種が18種確認された。該当種には陸鳥が多く、タカ目やハヤブサ目等の猛禽類が多く含まれている。

表 7-10 確認された重要種

No.	目名	科名	種名	学名	種の保存法	環境省 RDB	大阪 RDB
1	カモ	カモ	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>		DD	
2	ペリカン	サギ	ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>		NT	VU
3	カッコウ	カッコウ	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>			NT
4	チドリ	チドリ	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>			VU
5	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>		NT	
6		タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>		NT	CR+EN
7			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>			VU
8			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>		NT	
9			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>		NT	NT
10			サシバ	<i>Butastur indicus</i>		VU	CR+EN
11			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>			NT
12			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>	国内希少	EN	CR+EN
13			フクロウ	フクロウ	アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	
14	キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>			NT
15	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	国内希少	VU	
16	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>		VU	VU
17		ツバメ	コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>			NT
18		ムシクイ	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>		DD	
19			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>			NT
20		カワガラス	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>			NT
21		ヒタキ	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>			NT
22			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>			VU
23		ホオジロ	カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>			NT
合計	9目	15科	23種		2種	11種	18種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種  
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種  
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種  
 DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

③ 哺乳類確認種

文献「河内長野市における巣箱を用いたムササビの分布調査」(2019)を参考に、河内長野市環境政策課、同農林課、および滝畑ダム湖畔観光農林組合への聞き取り調査の結果、5目5科5種の哺乳類を確認した。確認された哺乳類を表7-11に示す。学名・分類群・配列は「日本の哺乳類改定2版」(東海大学出版会、2008)に従った。

表 7-11 文献・聞き取り調査 哺乳類確認種

No.	目名	科名	種名	学名	確認状況
1	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	滝畑ダム湖畔観光農林組合 聞き取り
2	ネズミ	リス	ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>	文献
3	ネコ	イタチ	アナグマ	<i>Meles meles</i>	滝畑ダム湖畔観光農林組合 聞き取り
4		アライグマ	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	河内長野市環境政策課 聞き取り
5	鯨偶蹄	イノシシ	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	河内長野市農林課 聞き取り
	4目	5科	5種		

④ 哺乳類重要種

文献・聞き取り調査で確認された哺乳類のうち、重要種に該当する種は大阪府レッドリスト2014に記載のある2目2科2種であった。確認された重要種を表7-12に示す。

表 7-12 確認された重要種

No.	目名	科名	種名	学名	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	ネズミ	リス	ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>			NT
2	ネコ	イタチ	アナグマ	<i>Meles meles</i>			NT
計	2目	2科	2種				2種

NT：準絶滅危惧種

現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種

## 8. まとめ

1. 現地調査と文献調査により、16目35科90種の鳥類が確認され、そのうち23種が重要種であった(表8-1、表8-2)。
2. 現地調査の結果、13目31科60種の鳥類が確認された。調査毎の確認種数は繁殖期が34種、秋期が38種、越冬期が34種であった。また、確認した鳥類の渡り区分の内訳は、留鳥62%、夏鳥15%、冬鳥18%、旅鳥2%、移入種3%と留鳥の割合が半数を占め、次いで冬鳥の割合が高い結果となった。繁殖が確認された種(Aランク)は3種、繁殖の可能性が高い種(Bランク)は13種であった。  
繁殖期には、留鳥であるヒヨドリ、ウグイス、メジロ、イソヒヨドリ、ハシブトガラスが多く、夏鳥ではツツドリ、ホトトギス、サシバが目立った。サシバは近年個体数の減少が報告され絶滅の恐れのある猛禽類である。秋期には、留鳥であるヒヨドリ、メジロ、イソヒヨドリ、アオゲラ、モズが多く、渡り性の鳥はあまり観察されなかった。越冬期でも、留鳥のヒヨドリ、ハシブトガラス、メジロが多く、冬鳥ではジョウビタキ、アオジが目立って観察された。  
ラインセンサス法で確認された鳥類は、12目25科42種259羽が確認された。ヒヨドリ、ウグイス、メジロなど里山に生息する種が多く確認された一方で、人に依存して生活するスズメは確認することができなかった。人家の少ない滝畑地区の環境を反映したものと思われる。  
定点観察法で確認された鳥類は、P1、P2合わせて9目17科24種81羽であった。ここでもヒヨドリが多く観察された他、越冬期にP2で水鳥のカイツブリが13羽の群で確認された。
3. 文献調査の結果、16目33科85種の鳥類が確認された。これら確認種の渡り区分の内訳は、留鳥47%、夏鳥18%、冬鳥27%、旅鳥6%、移入種2%であり、現地調査の結果と同様に、留鳥が一番高く、次いで冬鳥が高い割合を示した。
4. 現地調査において重要種は6目9科13種が確認され、その内訳は、種の保存法記載種2種、環境省レッドリスト記載種7種、大阪府レッドリスト記載種9種であった。なお、このうちサシバ(環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類)は、繁殖期に他個体を追い払おうとする排他行動が確認されたことから、観察地点周辺での繁殖が強く示唆された。さらにクマタカ(種の保存法記載種)については、越冬期に確認されたため繁殖の選定基準からは外れているが、雌雄による求愛のディスプレイフライトと考えられる行動が確認されており、周辺地域での繁殖が示唆された。  
文献調査において重要種は9目15科23種が確認され、その内訳は、種の保存法記載種2種、環境省レッドリスト記載種11種、大阪府レッドリスト記載種18種であった。このうち、タカ目やハヤブサ目等の猛禽類が10種確認されており、重要種に占める猛禽類の比率が高かった。
5. このように滝畑鳥獣保護区では一年を通して観察できる留鳥が多く生息する一方で、種の保存法記載種であるクマタカ、ハヤブサを筆頭に、いずれも重要種に指定されているハチクマ、オオタカ、サシバなどの猛禽類の生息が観察された。これら生態系上位種が多く確認されたことから、そのすそ野に餌となる多様な餌動物が多く生息する良好な環境が保たれていると考えられた。以上により、滝畑鳥獣保護区は鳥類の生息地として非常に貴重な地域であると言える。
6. 哺乳類は、現地調査及び聞き取り調査等によりニホンノウサギ、ニホンリス、ムササビ、アナグマ、アライグマ、イノシシの4目5科6種が確認された。ムササビ、アナグマは大阪府レッドリスト2014

記載種である。なお、アライグマは特定外来生物に指定されており、農業被害のほか、捕食などによる生態系への被害も報告されており、今後その動向を注視する必要がある。

7. 滝畑鳥獣保護区は、生態系上位種である猛禽類を頂点に多様な生き物が多く生息する地域である一方で、保護区内には遊歩道やハイキング・サイクリングコースのほか、キャンプ場やバーベキュー施設が整備されており、年間を通して多くの利用者に利用されている。このことから、今後も保護区として更新を続け、身近に体感できる優良な野生鳥獣の生息地として、より良い環境を整えることが重要であると考えられる。

表 8-1 現地調査・文献調査の鳥類確認種(1/2)

No.	目名	科名	種名	学名	繁殖期	秋期	越冬期	文献
1	キジ	キジ	ヤマドリ	<i>Syrnaticussoemmerringii</i>		○		
2			キジ	<i>Phasianuscolchicus</i>		○		
3	カモ	カモ	オシドリ	<i>Aixgalericulata</i>		○		○
4			ヨシガモ	<i>Anasfalcata</i>				○
5			ヒドリガモ	<i>Anaspenelope</i>				○
6			マガモ	<i>Anasplatyrhynchos</i>			○	○
7			カルガモ	<i>Anaszonorhyncha</i>	○		○	○
8			コガモ	<i>Anascrecca</i>			○	○
9	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptusruficollis</i>		○	○	○
10	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopeliaorientalis</i>	○	○	○	○
11			アオバト	<i>Treonsieboldii</i>		○		○
12	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocoraxcarbo</i>	○	○	○	○
13	ペリカン	サギ	ヨシゴイ	<i>Ixobrychussinensis</i>				○
14			アオサギ	<i>Ardeacinerea</i>	○		○	○
15			ダイサギ	<i>Ardeaalba</i>				○
16	ツル	クイナ	オオバン	<i>Fulicaatra</i>				○
17	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	<i>Cuculuspoliocephalus</i>	○			○
18			ツツドリ	<i>Cuculusoptatus</i>	○			○
19			カッコウ	<i>Cuculuscanorus</i>				○
20	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	<i>Apuspacificus</i>				○
21	チドリ	チドリ	イカルチドリ	<i>Charadriusplacidus</i>	○			○
22	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandionhaliaetus</i>	○	○	○	○
23		タカ	ハチクマ	<i>Pernisptilorhynchus</i>				○
24			トビ	<i>Milvusmigrans</i>	○	○		○
25			ツミ	<i>Accipitergularis</i>			○	○
26			ハイタカ	<i>Accipitermisus</i>			○	○
27			オオタカ	<i>Accipitergentilis</i>				○
28			サシバ	<i>Butasturindicus</i>	○			○
29			ノスリ	<i>Buteobuteo</i>			○	○
30			クマタカ	<i>Nisaetusnipalensis</i>			○	○
31			フクロウ	フクロウ	アオバズク	<i>Ninoxscutulata</i>		
32	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	<i>Halcyoncoromanda</i>				○
33			カワセミ	<i>Alcedoatthis</i>			○	○
34	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocoposkizuki</i>	○	○	○	○
35			オオアカゲラ	<i>Dendrocoposleucotos</i>				○
36			アカゲラ	<i>Dendrocoposmajor</i>				○
37			アオゲラ	<i>Picusawokera</i>	○	○	○	○
38	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falcoperegrinus</i>		○		○
39	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotusdivaricatus</i>	○	○	○	○
40		カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphoneatrocaudata</i>	○			
41		モズ	モズ	<i>Laniusbucephalus</i>		○	○	○
42		カラス	カケス	<i>Garrulusglandarius</i>	○	○	○	○
43			ハシボソガラス	<i>Corvuscorone</i>	○			○
44			ハシブトガラス	<i>Corvusmacrorhynchos</i>	○	○	○	○
45			シジュウカラ	コガラ	<i>Poecilemontanus</i>			○
46		ヤマガラ		<i>Poecilevarius</i>	○	○	○	○
47		ヒガラ		<i>Periparusater</i>			○	○
48		シジュウカラ		<i>Parusminor</i>	○	○		○
49	ツバメ	ツバメ	ツバメ	<i>Hirundorustica</i>	○			○

表 8-1 現地調査・文献調査の鳥類確認種(2/2)

No.	目名	科名	種名	学名	繁殖期	秋期	越冬期	文献	
50	スズメ	ツバメ	コシアカツバメ	<i>Hirundodaurica</i>				○	
51			イワツバメ	<i>Delichondasypus</i>	○	○		○	
52		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetesamaurotis</i>	○	○	○	○	
53		ウグイス	ウグイス	<i>Cettidiphone</i>	○	○	○	○	
54			ヤブサメ	<i>Urosphenasquameiceps</i>				○	
55		エナガ	エナガ	<i>Aegithaloscaudatus</i>	○		○	○	
56		ムシクイ	オオムシクイ	<i>Phylloscoposexaminandus</i>				○	
57			センダイムシクイ	<i>Phylloscopuscoronatus</i>	○			○	
58		メジロ	メジロ	<i>Zosteropsjaponicus</i>	○	○	○	○	
59		ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytestroglodytes</i>			○		
60		カワガラス	カワガラス	<i>Cincluspallasi</i>	○	○	○	○	
61		ヒタキ	トラツグミ	<i>Zootheradauma</i>				○	
62			クロツグミ	<i>Turduscardis</i>				○	
63			シロハラ	<i>Turduspallidus</i>				○	
64			ツグミ	<i>Turdusnaumanni</i>				○	
65			コルリ	<i>Lusiniacyane</i>				○	
66			ルリビタキ	<i>Tarsigercyanurus</i>				○	
67			ジョウビタキ	<i>Phoenicurusauoreus</i>			○	○	
68			イソヒヨドリ	<i>Monticolasolitarius</i>	○	○	○	○	
69			エゾビタキ	<i>Muscicapagriseisticta</i>			○	○	
70			コサメビタキ	<i>Muscicapadaurica</i>				○	
71			キビタキ	<i>Ficedulanarcissina</i>	○			○	
72			オオルリ	<i>Cyanoptilacyanomelana</i>	○			○	
73			イワヒバリ	カヤクグリ	<i>Prunellarubida</i>				○
74			セキレイ	キセキレイ	<i>Motacillacinerea</i>	○		○	○
75		ハクセキレイ		<i>Motacillaalba</i>				○	
76		セグロセキレイ		<i>Motacillagrandis</i>			○	○	
77		ビンズイ		<i>Anthushodgsoni</i>			○	○	
78		アトリ	アトリ	<i>Fringillamontifringilla</i>			○	○	
79	カワラヒワ		<i>Chlorissinica</i>	○			○		
80	マヒワ		<i>Carduelisspinus</i>				○		
81	ベニマシコ		<i>Uragussibiricus</i>				○		
82	ウソ		<i>Pyrrhulapyrrhula</i>				○		
83	シメ		<i>Coccothraustescoccothraustes</i>				○		
84	イカル		<i>Eophonapersonata</i>				○		
85	ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberizacioides</i>	○	○	○	○		
86		カシラダカ	<i>Emberizarustica</i>				○		
87		アオジ	<i>Emberizaspocephala</i>				○		
88		クロジ	<i>Emberizavariabilis</i>				○		
89	(キジ)	(キジ)	コジュケイ	<i>Bambusicolathoracicus</i>	○	○	○	○	
90	(スズメ)	(チメドリ)	ソウシチョウ	<i>Leiothrixlutea</i>		○		○	
合計	16 目	35 科	90 種		34 種	38 種	34 種	85 種	



表 8-2 現地調査・文献調査の重要種

No.	目名	科名	種名	学名	種の保存法	環境省 RDB	大阪 RDB	現地調査			文献調査	
								繁殖期	秋期	越冬期		
1	カモ	カモ	オシドリ	<i>Aixgalericulata</i>		DD			○		○	
2	ペリカン	サギ	ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>		NT	VU				○	
3	カッコウ	カッコウ	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>			NT	○			○	
4	チドリ	チドリ	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>			VU	○			○	
5	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>		NT		○	○	○	○	
6		タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>		NT	CR+EN				○	
7			ツミ	<i>Accipiter gentilis</i>			VU		○		○	
8			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>		NT			○		○	
9			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>		NT	NT					○
10			サシバ	<i>Butastur indicus</i>		VU	CR+EN	○				○
11			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>			NT			○		○
12			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>	国内希少	EN	CR+EN		○	○		○
13	フクロウ	フクロウ	アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>			VU				○	
14			オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>			NT					○
15	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	国内希少	VU			○		○	
16	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>		VU	VU	○	○	○	○	
17			コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>			NT					○
18		ムシクイ	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>		DD						○
19			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>			NT	○				○
20		カワガラス	カワガラス	<i>Cinclus pallasi</i>			NT	○	○	○	○	
21		ヒタキ	トラツグミ	<i>Zosteradauma</i>			NT					○
22			コサメビタキ	<i>Muscicapadaurica</i>			VU					○
23			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>			NT					○
合計	8 目	12 科	23 種		2 種	11 種	18 種	8 種	10 種	5 種	23 種	

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類  
VU：絶滅危惧Ⅱ類  
NT：準絶滅危惧種  
DD：情報不足

絶滅の危機に瀕している種  
絶滅の危険が増大している種  
現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種  
評価するだけの情報が不足している種

表 8-3 現地調査・文献聞き取り調査の哺乳類確認種

No.	目名	科名	種名	学名	現地調査	聞き取り調査
1	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	<i>Lepusbrachyurus</i>		○
2	ネズミ	リス	ニホンリス	<i>Sciuruslis</i>	○	
3			ムササビ	<i>Petauristaleucogenys</i>		○
4	ネコ	イタチ	アナグマ	<i>Melesmeles</i>		○
5		アライグマ	アライグマ	<i>Procyonlotor</i>		○
6	鯨偶蹄	イノシシ	イノシシ	<i>Susscrofa</i>	○	○
合計	4 目	5 科	5 種		2 種	5 種

表 8-4 現地調査・文献聞き取り調査の哺乳類重要種

No.	目名	科名	種名	学名	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	ネズミ	リス	ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>			NT
2	ネコ	イタチ	アナグマ	<i>Meles meles</i>			NT
合計	2 目	2 科	2 種				2 種

・哺乳類重要種は文献・聞き取り調査のみで確認している

## 9. 参考文献

1. 「環境省レッドリスト 2021」(2021年, 環境省)
2. 「大阪府レッドリスト 2014」(2014年, 大阪府)
3. 「「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令の一部を改正する政令」の閣議決定について」(2019年1月, 環境省報道発表資料)
4. 「大阪府鳥類目録 2016」(2016年, (財) 日本野鳥の会大阪支部)
5. 「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)
6. 「滝畑鳥獣保護区鳥獣保護区指定調査報告書」(2012年, 大阪府)
7. 「大阪府河内長野市における巣箱を用いたムササビの分布調査」(2019年, 「地域自然史と保全」, 関西自然保護機構)
8. 「河内長野市植物調査報告書 第1編河内滝畑の植物」(1975年, 河内長野市教育委員会)
9. 「滝畑ダム探鳥会報告」(2016～2022年、「こげら通信 204号～240号」, 河内長野野鳥の会)
10. 「河内長野ため池調査 滝畑ダム」(2020年4月～2022年3月, 河内長野野鳥の会)
11. 「日本の哺乳類 改定2版」(2008年, 東海大学出版会)